

# 平成26年度 安田中学校グランドデザイン

## 新潟県学校教育の重点より

- 【地域の特色を生かし、地域とともに歩む学校づくり】  
 <学校教育の重点事項>  
 1 学ぶ意欲を高め、確かな学力を育成する教育の推進  
 2 豊かな心などをはぐくむ教育の推進（道徳教育の充実）  
 3 いじめを見逃さない、いじめを許さない意識の醸成  
 （「いじめ見逃しゼロスクール」の推進）  
 4 健康でたくましい心身をはぐくむ教育の充実  
 5 一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育の推進  
 6 郷土愛を軸としたキャリア教育の推進  
 <努力事項より>  
 ・人権教育、同和教育、健康教育、食育  
 （豊かな心の育成、健康でたくましい心身の育成）

## 学校・生徒の実態

- 学習への意識が高まりつつあるが、基礎的な内容にねばり強く取り組む必要がある。
- 生徒の中に学校をよりよくしようとする気運が高まりつつあるが、人間関係の希薄さも感じられる。

## 保護者等の願い

- 他者とのかかわりの中で、自らを高められる生徒に育ってほしい。
- 社会で通用する考え方や知識・技能、生活習慣等を身に付けてほしい。

## 阿賀野市教育の重点より

- 【児童・生徒一人一人の学びを保障し、思考力・判断力・表現力を高める授業改善を行う】  
 <小・中学校教育の努力事項>  
 1 保護者・地域とともに、連携・協力して学校づくりに取り組む。  
 2 中学校区で連携した取組を推進して学力の向上を図る。  
 3 生命尊重や思いやりの心、規範意識を育む。  
 4 適切な運動経験を通して、たくましく生きる体力の向上を図る。  
 <小・中学校教育の配慮事項より>  
 ・人権教育・同和教育（自他の人権を守る行動力の育成）  
 ・中1ギャップの解消（中学校区の緊密な連携体制の確立）  
 ・食育の充実（望ましい生活習慣の基盤としての「食育」の充実）

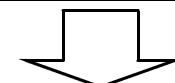


## 教育目標

- すすんで学習に取り組む生徒
- けじめをつけて生活できる生徒
- 思いやりのある心豊かな生徒

## 学校経営方針

目指す学校の姿	○生徒一人一人が、自他のよさや成長を実感できる学校 ○生徒たちが自校に誇りをもてる学校 ○中学校及び生徒が地域の宝だと思ってもらえる学校
高め合い、行動力のある職員集団	【生徒に育みたい力】（社会性と学力） ・自己肯定感・自己有用感 ・自ら考え、自ら学ぶ力（学力の向上） ・豊かな人権感覚 ・人間関係づくりの能力・スキル
	保護者や地域等と連携し、次世代を担う子どもたちの姿を提案できる学校



## 知 育

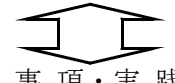
- <成果目標>  
 ○ Web 診断テストで、県平均正答率の 90 % 以上の正答率になる回が年間で 70 % 以上になる。また、県平均以上になる回が 25 % 以上になる。  
 ○ 学年に応じた学習量を、継続的に取り組む生徒が年間 70 % 以上になる。  
 <教育活動>  
 ○ 長期休業中、定期テスト前の補充学習及び web 診断テストの過去問題やサポート問題を利用した補充学習を、年間で 35 時限以上実施する。  
 ○ 各授業担当者がそれぞれの授業（生徒の取組）を評価し、A 評価になる割合が、年間 70 % 以上になる。  
 <運営活動>  
 ○ 基礎・基本の定着や、発展的学習の充実を目指し、UD に基づいた研究授業（教科）を年間 15 回以上行う。

## 徳 育

- <成果目標>  
 ○ 以下の質問項目について、肯定的評価（4 件法で A・B）の生徒の割合が、それぞれ下記の数値を超える。  
 ① 自分にも少しは良いところがあると感じている。（A…3割, A と B…8割）  
 ② 自分は様々な人に支えられているという実感がある。（A…5割, A と B…9割）  
 ③ 差別や偏見をもたずに人とかかわるという意識が高まった。（A…5割, A と B…9割）  
 <教育活動>  
 ○ 人権や人間関係づくりにかかわる学習の機会（道徳・学級活動）を、各学級で 5 時間以上行う。  
 <運営活動>  
 ○ Q-U アンケートの結果分析の活用や、研究授業とその協議会等、人間関係づくりに関する職員研修を 5 回以上実施する。

## 体 育

- <成果目標>  
 ○ 食事調査により、バランスのよい朝食を毎日とる生徒の割合が全校 65 % 以上になる。  
 ○ 望ましい理想的な就寝時間（11 時 00 分）、起床時間（6 時 30 分）を心がけ、規則正しい生活を送る生徒の割合が 65 % 以上になる。  
 ○ 個々に昨年度の体力テストの結果を受け、今年度各種目の数値の向上を目指す。また、体力テストを学期に一度取り組み、数値の向上を目指す。  
 <教育活動>  
 ○ 技術・家庭科や学級活動において、全学級が食に関する指導を年間 3 回実施する。  
 ○ 各学年朝会において、望ましい生活習慣についての啓発活動を年間 2 回以上行う。  
 ○ 保健体育の授業で、週 1 回以上総合的な体力向上のためのサーキットトレーニングを実施する。  
 <運営活動>  
 ○ 食生活及び生活習慣（早寝、早起き、朝ごはん）の振り返り活動を行い、結果分析を利用した啓発活動を年間 2 回実施する。  
 ○ 体力向上のためのトレーニング研修を年間 3 回以上実施する（運動部顧問は 1 回以上参加）。



## 努力事項・実践事項

<h3>学力向上部</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学力分析と課題把握（NRT 等の各種調査）</li> <li>○ 言語活動の充実（コミュニケーション活動）</li> <li>○ T・T や少人数指導</li> <li>○ ドリル学習の実施</li> </ul>	<h3>心の教育部</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習会（補充学習）（長期休業中・質問教室）</li> <li>○ 継続的な家庭学習調査と啓発活動</li> <li>○ 体験活動や地域との交流機会の充実</li> </ul>	<h3>特別活動部</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 互いに高め合う集団づくり（自己・相互評価の機会の充実）</li> <li>○ 複数担任制を活用したきめ細かな指導（中 1 ギャップ解消）</li> <li>○ SGE の実践</li> <li>○ 生徒会による生活向上の取組</li> <li>○ Q-U テスト等の実施と分析</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援教育の充実（教育的ニーズの把握と授業の充実）</li> <li>○ 進路指導（学ぶ意義と目的を考える学習の充実）</li> <li>○ 家庭への適切な情報提供と信頼関係づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な生活習慣の実態把握と食に関する啓発活動</li> <li>○ 薬物乱用防止・性教育</li> <li>○ 防災教育の充実</li> </ul>	